

○事業化できなかったご提案と検討結果

受付番号	提案事業名	検討結果
<24年度提案>		
1	再生可能エネルギーへの転換促進	県立学校への太陽光パネル等の設置につきましては、校舎の新築・改築に併せて順次、進めております。また、岐阜県地域グリーンニューディール基金事業(23年度終了予定)により、モデル的に県有施設等に太陽光パネル等を導入しておりますが、県庁や総合庁舎への太陽光パネル等の設置につきましては、現時点では庁舎の新築・改築予定がなく、設置場所の確保、設置費用及び得られる発電量等を勘案すると、基金による対応は適当でないと考えております。
2	東日本大震災等被災者への支援	東日本大震災により県内に避難されている方からの要望につきましては、様々な相談をワンストップでお聴きする「パーソナルサポートチーム」を設置するとともに、仕事、教育、健康医療等のお困りごとを様式に記載のうえ、提出いただいております。ご提案いただいた就職活動のマッチングにつきましては、平成23年4月に国、県、産業界の関係団体、教育・訓練機関等による『「日本はひとつ」しごと協議会ぎふ』を立ち上げ、被災された方の就労機会の創出等に取り組んでおります。また、被災された方の住宅に関する支援につきましては、住宅の無償提供を平成23年3月から県及び市町村の公営住宅において、同年11月からは県が借り上げた民間賃貸住宅において実施しております。
3	タイガーマスク基金の設立	特別支援学校は、地元の社会事業団、ライオンズクラブ、企業などから生徒の通学用スクールバスや教材備品など、各特別支援学校ごとの要望を踏まえた支援を数多くいただき運営しております。さらに必要な物品等があれば、県においても予算化して手当てしております。
4	県債の償還	ふるさとぎふ再生基金につきましては、「返還金は本来県民のために使われるべきお金であり、県民生活向上のために、県民の意見を聴いて活用すべきと考えられること」、「不正資金問題を県政の教訓として、職員らの公金意識を高め、同じ過ちを繰り返さない意識を長期にわたって徹底するという想いを込めたものであること」という方針から借金返済や減税には充てないこととしております。
5	岐阜県障害者スポーツ大会への精神障がい者参加種目の拡充	平成24年度の岐阜県障害者スポーツ大会(春大会)は、第12回全国障害者スポーツ大会(ぎふ清流大会)のリハーサル大会として、全国大会の競技種目のみ(精神障がいのある方が個人で参加する卓球・ボウリングは含みません。)を実施します。 なお、全国大会への選手派遣は県の業務であり、岐阜県障害者スポーツ大会は全国大会の選手選考会を兼ねて開催しております。 このため、全国大会の競技種目以外の種目につきましては、まずは自発的に取り組む団体などで実施されることがふさわしいと考えており、競技人口の規模、精神障がい福祉関係団体からの要請、精神保健福祉関係者や医療機関等の協力体制によっては、将来的に岐阜県障害者スポーツ大会の種目の拡充は可能であると考えています。
6	おりがわ湖(域)の(市民による)地域コミュニティの形成と活性化	個々の観光資源の活性化に向けた取組みは、地元市町村や民間団体の発意によることが望ましいと考えており、県としては有識者を交えながら、こうした資源の魅力や地元の熱意等について総合的に検討した上で、観光資源の活性化に向けた取組みを支援しております。また、地域住民、NPOなどの活動主体が市町村と連携して進めるまちづくりの取組みには、県による「まちづくり支援チーム」の派遣などで支援しております。なお、ご提案にある交流拠点は、小里川ダム事業者及び管理者が国であることから県による整備は困難と考えております。また、道路区域内の法面や路側等の道路施設は、不特定多数の人が出入りできるガーデンテラス等を設置できる構造として想定されておらず、道路施設の安全性が確保できないことから道路占用許可も困難と考えております。
7	動物愛護センター設立事業	ふるさとぎふ再生基金事業につきましては、地域づくりや人づくりなど、将来の岐阜県の発展につながる事業を、「多数の県民の方に広くメリットがあること」「社会ニーズ、県民ニーズが高いこと」「岐阜県らしさがあること」という視点を踏まえて提案いただき、費用対効果などの視点も加えて県が事業化について検討しております。ご提案の動物愛護センターにつきましては、多数の県民の方へのメリットの有無、県民ニーズ及び事業費を総合的に勘案した結果、基金で対応することは困難と考えております。